

ちば

レジャー

# 名物市長が駅前再開発



□小金宿通りから見た駅方面。かつて神社があった場所には商業施設と住宅が入る再開発ビル「ピコティ」(右)が立つ。北小金駅の落成式に出席した地主たち。前列左が板倉さんの曾祖父の久雄さん(1911年撮影。板倉さん提供)

東京のベッドタウンとして発展してきた松戸市のJR北小金駅。夕方、下り電車からはき出された乗客たちが南口の駅前ビル「ピコティ」へ吸い込まれていく。ショッピングモールも入る街のランドマークだ。

「ビルが建つ前は神社があつてね」。近くに住む板倉徹男さん(80)が回想する。駅は板倉さんの曾祖父ら当時の地主たちが協力して1911年に開設された。駅と国道6号を結ぶ小金宿通りにはかつて宿場があり、その後の将軍・徳川慶喜も江戸と水戸の往来で水戸家専用の旅館に泊まった。今も旅籠「玉屋」の建物が残るこの道の北側に鎮座したのが八坂神社だった。

神社を移転させたのは、ドラ

ーの「ピコティ」(左)。近くに住む板倉徹男さん(80)が回想する。駅は板倉さんら多くの住民は地域の守り神を動かすことなく複雑な思いでいた。果たして、市長は移転の準備を進めていた73年5月に急逝した。神社は7月に移

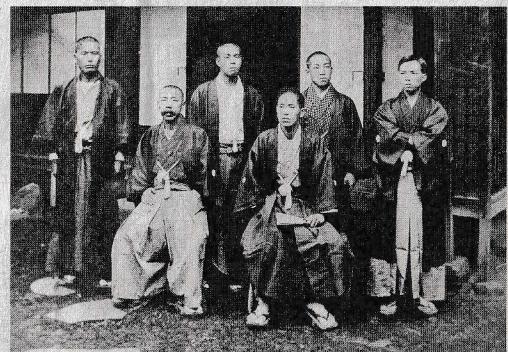
つたが、その後も跡地のオオイチヨウが倒れてマツモトキヨシ1号店を直撃。不穏な空気が流れだ。

悲願の再開発ビル「ピコティ」が完成したのは93年のこと。利便性は飛躍的に高まったが、板倉さんは「神社が中心から外れ、地域の結びつきは弱くなつた」と話す。

こうした状況を案じた地元有志は2003年に「小金の街をよくする会」を発足。事務局長

松本清氏が市役所に「すぐやる課」を設置して10月で50年。「市役所は、市民に役立つ、役に立つ人がいる所」。北小金ゆかりの名物市長の色あせない言葉だ。

(矢牧久明)



## 北小金駅

(松戸市)

で東漸寺住職の鈴木悦朗さん

(61)は市立小金小の児童に地域

の歴史などを教える取り組みを

供たちが駅前に電飾で彩りを添

えなど、郷土意識が育まれるようになつた。

